

元気なモノづくり中小企業300社

高度な技術を経産省が全国紹介

高度な技術で日本の産業を支えている中小企業の取り組みを紹介しよう
と経済産業省がまとめた

今年度の「元気なモノづくり中小企業300社」に、周南から周南市弥生町の大華工業（中川宣夫

社長）と下松市東海岸通り山下工業所（山下清登社長）が選ばれた。三百社の選定は二〇〇

六年（H18）から始まり、今年が三回目。第一回は周南市港町の徳機が選ばれた。今回、中国地方からは中国経済産業局や各県産業技術センターの推薦を中小企業政策審議会が選考し、十六社、県内から五社が選ばれた。

大華工業はステンレス鋼板の加工が主だが、八年（S57）から高級ビルの入り口のサッシやエレベーターのドアなどに使われるステンレス鏡面・意匠研磨を始めた。発注から納入まで二、四カ月かかるのが常識だったが、半自動式研磨機を導入して量産体制を整え、納期を一週間に短縮した。九二年（H4）には他社と共同開発した研磨機で科学技術庁の「注目の発明賞」を受賞。現在も国内トップの三〇％のシェアを占める。

またその技術を傷がなく均等な熱伝導率が求められる精密機械のプリント基板やIC、磁気カードなどをプレスするプレートなどに応用して業績を伸ばしている。中川社長（57）は「研磨の荒さ、深さの再現性をコントロールできる高い技術

を維持してきたことが評価につながった」と喜んでいる。
一方、山下工業所は六三年（S38）の創業以来、職人がハンマーで金属板を打ち出して新幹線の試験車から最新のN700系まで優美な曲線の先頭車両を製作し、台湾や韓国の特急やモノレールも引き受けている。

多品種少量生産のこの分野で、同社の打ち出し板金技術は加熱や専用金型が必要ないため生産性を大幅に向上させた。昨年は経済産業省の第二回ものづくり日本大賞特別賞を受賞。最近は技術力アピールに製作したアルミ製のチェロも話題を呼んだ。山下社長（72）は「ハンマーをコツコツ振つてきたただだが、従業員の大きな励みになります」と喜んでいる。

経済産業大臣感謝状贈呈式は九日に広島市の八丁堀シャンテで開かれ、八月五、六日は東京千代田区の東京国際フォーラムである「新連携・モノ作り中小企業全国フォーラム」で今回の選定企業の製品などが紹介され、両社も出品する。



ハンマーを持つ山下社長



意匠研磨したステンレスの前の中川社長

トロールできる高い技術